

## 第6回農産品物流対策関係省庁連絡会議 議事概要

○日時 平成30年3月20日

○場所 農林水産省6F食料産業局第1・2会議室

○出席者

農林水産省大臣官房審議官（兼食料産業局）、食料産業局食品流通課長、生産局園芸作物課園芸流通加工対策室長、経営局協同組織課長、政策統括官付穀物課米麦流通加工対策室長、政策統括官付地域作物課、経済産業省商務・サービス審議官、商務・サービスグループ物流企画室長、国土交通省大臣官房物流審議官、自動車局審議官、総合政策局物流政策課長、全国農業協同組合連合会、全国中央市場青果卸売協会、東京青果株式会社、全国青果卸売市場協会、全国青果卸売協同組合連合会、有限会社三秀、全国米穀販売事業共済協同組合、日本物流団体連合会、全日本トラック協会、新日本スーパーマーケット協会、日本パレット協会、日本パレットレンタル株式会社、三甲リース株式会社

○議事

<開会の挨拶>

（農林水産省大臣官房審議官（兼食料産業局））

- ・本連絡会議では、昨年3月の中間とりまとめに基づき、対応する施策の立案・予算要求や、農産品物流における一貫パレチゼーションの実現という重要課題について、パレット部会を設置し検討を重ねて来た。
- ・農産品の物流は、トラック事業者に与える負荷が大きいため、物流業界の働き方改革やルールの変更等の動きに迅速に対応していかなければ、物流費の高騰や、安定的な物流の確保が困難になることを危惧しており、業界団体の皆様には一層の物流効率化に向けた取組を期待している。
- ・本日は、昨年のとりまとめで示した対応方向に対する各省の関連施策の進捗状況について紹介するほか、パレット部会の検討結果の報告を受け、本連絡会議として、報告書が提案する農産品の一貫パレチゼーションの実現方策について決定いただきたい。
- ・一貫パレチゼーションの成否は、産地、卸、小売、物流の各流通段階の皆様の連携と協力にかかっているため、関係省庁、関係団体におかれては、各業界への周知、取組への働きかけをお願いしたい。

<議題>

（1）関係施策の進捗状況について

事務局より資料1に基づき関係施策の進捗状況について説明。

(2) パレット部会報告書について

事務局より資料2に基づきパレット部会報告書について説明。

修正意見がないため、これを持って本会議決定とする。

＜関係省庁・関係団体から、農産物の一貫パレチゼーションの実現に向けた今後の取組方針について発言＞

(国土交通省大臣官房物流審議官)

- ・全国的な取組への拡大の流れを本物の流れにしていくことが重要。
- ・トラックドライバーが減り、地方の物流網の劣化が加速している中、リーズナブルな範囲で出荷者が都市圏のマーケットにアクセスできるようにするためにはパレチゼーションは必須。
- ・実証からビジネスベースでの確立、そして全国展開まで何段階かあるが、本連絡会議で継続してフォローアップをしていくべき。

(国土交通省自動車局審議官)

- ・自動車運送事業の働き方改革に関する関係省庁連絡会議において、この春に行動計画をとりまとめる予定であるが、長時間労働を是正するためにも、荷役作業の軽減につながるパレットは有効であり、国交省のパイロット事業でも効果が実証されている。
- ・全国的な取組になることが重要であり、そのために協力していきたい。
- ・本連絡会議では、パレット以外にも、荷待ち時間の削減等の様々なテーマについて取組みを進めていくことを今後も期待したい。

(経済産業省商務・サービス審議官)

- ・サプライチェーン全体で取組む必要。RFIDは物流の情報化の面でも期待できる。
- ・所管の小売業にとって、eコマース等に対抗する上で、実店舗の強みは農産物を中心とする生鮮品であり、農産物の物流を効率化して供給を確保していくことは小売業にとって大きなメリットとなるということについて、広く理解を得ていきたい。

(全日本トラック協会)

- ・業界として働き方改革に対応するため、アクションプランを策定したとこ

ろであるが、労働時間の削減や荷役作業の効率化等について、大いにこのパレットの取組と合致する部分があるので、トラック業界として大変期待している。今後、関係者と連携しこの仕組みを広く周知していきたい。

(日本物流団体連合会)

- ・農産物の一貫パレチゼーションは念願であり、大歓迎。11型への統一等細かい部分では疑問が残るところもあるが、可能な限り前向きに対応したい。

(全国農業協同組合連合会)

- ・全農として最大限協力したい。ドライバー不足の影響で、北と南の遠隔産地で思うように荷物が運べず、荷降ろし頻度を減らすケースもあるが、一貫パレチゼーションによって、そのようなチャンスロスを防げることを期待。
- ・トラック業界と同様に農業も労働力不足が深刻であり、事務局と運営を十分協議し農業者の所得向上に寄与するような取組にしたい。

(東京青果株式会社)

- ・物流の様々な問題が一番出てくるのは市場であり、卸、仲卸の部分。パレット化が進まなかったことがその大きな原因。
- ・他の市場にも声をかけて、この仕組みがうまく回るように協力していきたい。

(全国青果卸売市場協会)

- ・協会としてこの仕組みに賛同。これが確立されれば、荷役作業軽減に加えて、現状発生している市場で放置されたパレットの廃棄処分にともなう多額の出費も軽減されると考えている。
- ・会員に周知を図っていく。また、パレット活用の研究会開催時には関係者を講師として派遣いただきたい。

(有限会社三秀)

- ・RFIDによって検品能力の格段の向上が期待できる。
- ・物理的に11型に収まらない長さの農産物もあるが、パレット規格は揃えないと前には進まない。
- ・市場ではパレットの所有権やコストについての認識が低いのが現状。今まで見えにくかったコストを明確化する意味でもパレチゼーションは有効であるので、是非進めていきたい。

(全国米穀販売事業共済協同組合)

- ・ 青果とは流通経路が異なるが、米についても一貫パレチゼーションを進めているところ。
- ・ 青果物の次は米や他の物に対しても取組を広げて行って欲しい。

(新日本スーパーマーケット協会)

- ・ 小売としては、パレットの保管と返却を確実に行うことが第一。
- ・ パレットによる作業時間の短縮に伴って、鮮度の向上やロス軽減等のメリットを享受できると考えられるため、協会を上げて周知と協力をしていきたい。

(日本パレットレンタル株式会社)

- ・ これまでパレットの議論は様々なところで取上げられながらも、中々具体論まで至らないという中で、今回パレット部会において具体性を持ったスキームが作られたということは、本当に革新的なこと。
- ・ 事業者としてのメリットではなく、産業界としてパレットを用いた革新的な物流ができるということに期待しており、利益よりも、どう普及させていくかを考えて参加していきたい。
- ・ パレット規格の標準化、発荷主と着荷主の間の受け払いの管理、パレット回収コストの公平な負担の3つがこの仕組みのキモ。

(三甲リース株式会社)

- ・ 当社は折り畳みコンテナのレンタルを行っており、当初は回収率が95%程度であったが、QRコードでの管理によって問題点の見える化を図り、99%まで改善。今回のパレットにおいてもRFIDの管理でどれだけ見える化して改善していけるかがポイント。
- ・ 紛失させない仕組み、高回転で回せる仕組みを皆で作ることによって、全体としてコストを下げていけると考える。
- ・ コンテナのレンタルで取引のある卸売市場や量販店に対して、パレットについても協力してもらえよう提案していきたい。

以上